



校訓： 進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

英田っ子

学校だより 11月号
平成28年10月31日
校長 藤井 恒雄

「挑戦」～努力の壺～

今日で10月も終わり、明日からは11月です。日本では「霜月」と呼ばれるように、本格的な冬に向かってみぞれや初霜・初雪も見られる月です。学校周りの木々も黄緑色から橙色へと変わり秋色に包まれています。



10月最初の行事は1～4年生の遠足（3日）でした。芸術鑑賞（4日）、6年生町小学校体育大会（5日）、6年生森林体験学習（13日）、5年生河北潟の体験学習（14日）、就学時健康診断（18日）、校内マラソン大会（20日）、4年MISIAの森学習（25日）、児童会ふれあいチャレンジなど各種の行事が実施されました。また、郡市読書感想文コンクール、図画や書写作品展など、まさに文化の秋、芸術の秋、スポーツの秋の1ヶ月でした。子どもたちも元気いっぱい過ぎ、一生懸命がんばる姿、粘り強く走り続ける姿、目を輝かせ勉強する姿、低学年に優しく声をかける姿、静かに話を聴く姿、爽やかにあいさつする姿など多くの「清々しい、美しい姿（カッコイイ姿）」を見せてくれました。いよいよ2学期も折り返しを迎える11月です。立冬から立春（2月4日頃）までが、暦の上では「冬」になります。寒さが日増しに厳しくなる時期ですが、落ち着いて学習に取り組んで欲しいと思っています。

本日の集会で、11月3日の「いしかわっ子駅伝」に参加する選手を紹介しました。激励の拍手を送ると共に、全校児童に「挑戦～努力の壺～」についての話をしました。



人間は何か挑戦しようとする時、心の中に神様から壺をもらうそうです。それを「努力の壺」といいます。一生懸命に努力をすると、努力が壺の中にどんどん貯まっていき、最後に壺からあふれた時に、挑戦しようとしたことができるようになるのだそうです。簡単なことに挑戦する時ももらう壺は小さいかもしれませんが、ですからすぐに努力があふれ、できるようになるでしょう。苦手なことや難しいことに挑戦する時ももらう壺は多分大きいので、たくさんたくさん努力を貯めないと壺からあふれることはありません。残念なのは、この壺の大きさが自分はもちろん誰にも分からないということです。今どのくらい貯まっているか、あとどのくらい努力を貯め続ければあふれるのか、できるようになるまで分からないのです。貯まっていく様子は目に見えないのです。でも、挑戦して努力をした分は間違いなく壺の中に貯まっていますから、努力を続けていればいつかは必ず、あふれる時がくるのです。あと少しであふれるかもしれないのに、努力をそこでやめてしまっただけは本当にもったいないと思います。来る日も来る日も休まずに、コツコツと努力を続けていけば、時間はかかるかもしれませんが、いつか必ずできるようになる時が来ると思います。

4月以来、どの学年もよく頑張り、「清々しい、美しい姿（カッコイイ姿）」もたくさん見られるようになってきています。『小さな努力（がんばり）』を続けて、壺の中に努力を入れてきた結果だと思っています。2学期も半分が過ぎました。勉強や運動ががんばる大切な時です。子どもたちにとっては毎日が挑戦です。苦手なことに背を向けず、コツコツと努力を続けてほしいと願っていますし、自分自身も努力を続けることを忘れてはいけないと思っています。

